

第2次安曇野市観光振興ビジョン 第4回策定検討委員会 議事録

- 1 会議名 第2次安曇野市観光振興ビジョン 第4回策定検討委員会
- 2 日時 令和4年10月3日 午後1時30分から3時40分まで
- 3 会場 安曇野市役所本庁舎 3階 会議室 305
- 4 出席者 尻無浜博幸 委員(委員長)、宮田弘康 委員(副委員長)、丸山君恵 委員、加藤進 委員、仙石弘子 委員、衛藤悦郎 委員、小岩井清志 委員、白澤勇一 委員、中澤美穂 委員、西山直美 委員、青柳靖決 委員(12名中11名)
- 5 オンライン出席者 中村梢 委員(12名中1名)
- 6 アドバイザー 長野県観光機構 石川淳也
- 7 市側出席者 商工観光スポーツ部 野口部長、観光課 下里課長、高野係長、丸山係長、由井係長、小林係長、黒岩、第一企画株式会社
- 8 公開・非公開の別 公開
- 9 傍聴人 2人 記者 0人
- 10 会議概要作成年月日 令和4年10月12日

協議事項等

1 開会 (副委員長)

2 委員長あいさつ (委員長)

- ・前回(第3回)までで骨格となる施策までが決定した。今回(第4回)では、具体的な事業を検討し、ビジョンの全体像を固めていきたい。
- ・他の自治体の委員会と比べても、本委員会は意見が活発で大変ありがたい。いただいた意見を整理して、計画としてまとめていきたい。

3 議事

(1) 事業の検討

●「資料1 施策体系」について説明(事務局)

- ・「事業説明」「新規・強化する取り組み」を追加。
- ・「柱3」の基本戦略の順番を変更。「ヒト」「モノ」「コト」の順とした。
- ・〈3-2-1〉の施策「地域資源の活用」は、自然や景観、歴史など、具体名を入れると、地域資源が限定されてしまうため、元のままとした。
- ・「情報の一元化」は、〈1-3-3〉の事業説明に記載。ハード面の一元化とあわせ、デジタルを活用してソフト面の一元化も行っていく。
- ・「ユニバーサルツーリズム」関連は、〈1-4-3〉に施策「多様な旅行ニーズへの対応整備」を追加した。
- ・「柱3」タイトルへの「連携」の追加については、「連携」は「柱3」だけではなく、ビジョン全体にかかわることであるため、タイトルへの追加はせず、①事業ごとに連携先を明記する ②推進体制の中で連携を明示することに対応したい。

協議事項等

〈委員長〉前回で出され意見に対しては、概ね反映されている。しかし、「連携」については、委員の意見を踏まえて事務局から修正案の提案があったが、どうか。

⇒〈委員一同〉異議なし。

⇒〈委員長〉では、この修正案の提案のとおりとし、「連携」はビジョン全体にかかわる要素として、扱っていきたい。

〈委員長〉では、(1)「事業の検討」について協議に入る。「資料1 施策体系」の一番右の欄「具体的内容の例」に対して、意見を出して行ってほしい。

⇒〈副委員長〉第1次ビジョンの評価を行った有識者会議での委員長を務めた立場から補足。前ビジョンでは、具体的な内容が定められておらず、評価する際に大きな課題となった。今回のビジョンでは、それぞれの内容について具体的に評価ができるものになるよう、検討を進めてほしい。

⇒〈委員〉第1次ビジョンの評価方法は、取り組みの内容に対し「A」「B」「C」「D」の評価を下すものだったが、評価方法として不十分。具体的な数値によって、達成できたのか否かを評価すべき。ただし、施策体系に記載されたすべての取り組みに対し数値を設定するのは難しいので、この委員会で優先順位を決めてはどうか。

⇒〈副委員長〉この委員会で数値まで決めていくのは、時間的に難しいので、ここでは具体的な内容の精査を行いたい。有識者会議から選出されている委員からも補足をお願いしたい。

⇒〈委員〉評価する際に最も重要なのは、どのくらい観光客を呼び込むことができ、どれだけ観光消費額が増えたかという点。そのために、満足度の向上やインフラの整備など、さまざまな施策を組み合わせていくのが観光振興の仕組みだと考えている。しかし、すべての施策を数値化して評価することは難いため、総合的に評価する必要があると思う

⇒〈委員〉数値化された結果による評価は重要だが、プロセスの評価も行うべき。山岳観光でいえば、「入山者数」といった数値のみで評価するのではなく、「縦走文化の育成」といったプロセスも評価すべき。「縦走」は、安曇野における山岳観光の強みとして世界・全国へ発信でき、ブランド化できるもの。具体策としては上高地との連携促進。たとえば、「沢渡ナショナルパークゲート」のようなハブ機能を持った交通・情報発信拠点と、安曇野の中心地とをつなぐことでそれが達成できる。そうした考え方であれば、評価しやすいビジョンになるかと思う。

⇒〈事務局〉評価については、今回の「議事(3) KGI(重要目標達成指標)の検討」と、次回(第5回)の「KPI(重要業績評価指標)の検討」にて協議するので詳細は省くが、ビジョン全体に対する評価指標としてKGIを、そこにつながるKPIを基本戦略ごとに設定することを想定している。

〈委員長〉議論が「評価方法」のことにそれてしまったが、ここでは「具体的内容」について検討を行っていきたい。「基本戦略」ごとに議論を進めていく。先ほど「山岳観光の推進」について意見があった。「上高地との連携促進」は、基本戦略1-4「観光都市としての基盤整備」に位置づけても良いかもしれない。そうした具体的な意見を出して行ってほしい。

⇒〈委員〉前回までの議論である程度で尽くしていると思う。ここでは、優先順位をつけるための検討を行ってはどうか。

⇒〈委員長〉「議事(2)重点プロジェクトの検討」にて、優先すべき施策等についてまとめた重点プロジェクトを検討する。

〈委員長〉引き続き、「具体的内容」について検討を行っていきたい。基本戦略1-2「観光地ブラ

協議事項等

ンドの確立」について意見を出してほしい。

〈委員〉先ほどの「縦走文化の育成」に関連して。上高地の方が公共交通が整備されているため、縦走するのに安曇野から登って上高地に降りている方が多く、上高地側にお金が多く落ちているのが現状だと思う。新島々と安曇野の登山口とをピストン輸送する交通網があれば、安曇野にお金が落ちる仕組みをつくることができると思う。

また、「水」や「信州サーモン」も安曇野の重要なブランドのひとつなので、追加してはどうか。

⇒〈委員長〉どの施策に追加するか、といった点まで具体的に言及してほしい。「新島々と登山口とのピストン輸送」は、〈1-4-1〉「二次交通の整備」が妥当か。「水」「信州サーモン」については、どうか？

⇒〈委員〉〈3-2-3〉「食の魅力発信」とも思ったが、悩みどころ。安曇野のブランドという点で、〈1-1-2〉「世界・全国に通用する地域ブランドの育成と発信」に入れてもらいたい。

〈委員長〉「基本戦略」ごとだと範囲が広く、議論が前後してしまうため、「事業」ごとに検討していくことにしたい。「事業」と、その「具体的内容」が必要十分かという観点で意見を出してほしい。ここから仕切り直して、〈1-1-1 (1)〉「観光地ブランド形成に向けたストーリー構築」について、どうか？

⇒意見なし。

〈委員長〉〈1-1-2 (1)〉「わさびを活用した観光振興」について、どうか？

⇒〈委員〉わさびは、栽培に必要な湧水量の減少や生産量の減少など、生産面での課題があるように思う。また、わさび単体ではメイン料理にならないため、メニュー開発も必要。

⇒〈委員長〉生産面の課題等については、今後、留意していくこととしたい。

〈委員長〉〈1-1-2 (2)〉「山岳観光の推進」について、どうか？

⇒〈委員〉「安曇野ナショナルパークゲートの設置」を追加してほしい。駐車場に加え、観光地におけるマナーなどの情報発信や文化を発信する機能を持ったもので、山岳観光にも活用できるもの。これに近いものが「沢渡ナショナルパークゲート」だが、冬季は閉鎖されてしまう点、岐阜側からの来訪者に対応していない点で課題がある。安曇野では、そうした課題を踏まえた、先進的な施設を造ればブランド化に資すると思う。

〈委員長〉〈1-1-2 (3)〉「天蚕を活用した観光振興」について、どうか？

⇒意見なし。

〈委員長〉〈1-1-2 (4)〉「安曇野サイクルブランドの構築」について、どうか？

⇒〈委員〉荷物運搬サービスについての取り組みも追加してほしい。自転車でも、カゴしかないため、途中で土産などを買うことを躊躇してしまう。ワインやケーキなどは特に。そこに対するサービスがあれば、観光消費額を増やせるのではないかと思う。

〈委員長〉〈1-1-2 (4)〉「ロゴデザイン等を活用したブランドの構築」について、どうか？

⇒〈委員〉コラボする観光資源のひとつに、「ごはん」を追加してほしい。安曇野はお米の大変美味しいところで、生産も盛んなので、地産地消につながる。

⇒〈委員〉内容に「ロゴマークの再検討」とあるが、現在のロゴマークは良いものだと思う。再検討する必要があるのか。

⇒〈事務局〉「朝が好きなまち安曇野」のロゴマークがあるが、朝に営業している店舗が少ないなど、キャッチフレーズと現実が繋がっていないところもあるため、活用の

協議事項等

手法について再検討していく必要があるため、記載している。

〈委員長〉〈1-1-3〉「フィルムコミッション機能の充実」に関する事業について、どうか？
⇒意見なし。

〈委員長〉〈1-2-1〉「持続可能なマネジメント体制の構築」に関する事業について、どうか？
⇒意見なし。

〈委員長〉〈1-2-2〉「社会経済のサステナビリティの醸成」に関する事業について、どうか？
⇒〈委員〉記載されている内容については問題ないが、どこの観光地でも行っていること。コンセプトである「また行きたい 選ばれ続ける観光地 安曇野」の実現に向けて、特色のある取り組みを行う必要がある。

〈委員長〉〈1-2-3〉「文化・環境のサステナビリティへの貢献」に関する事業について、どうか？
⇒意見なし。

〈委員長〉〈1-2-4〉「観光危機管理体制の構築」に関する事業について、どうか？
⇒意見なし。

〈委員長〉基本戦略〈1-3〉「観光DXの推進」に関する施策・事業について、どうか？
⇒〈委員〉〈1-3-3 (3)〉「MaaSの推進」について、MaaSによる交通の一元と、情報の一元化をあわせて進めていく必要がある。
⇒〈委員〉MaaSに関しては、JRでも北信濃や軽井沢での取り組み実績がある。安曇野市においても検討しているとのことなので、JRとしても協力していきたい。

〈委員長〉〈1-4-1〉「二次交通の整備」に関する事業について、どうか？
⇒〈委員〉安曇野のシェアサイクルについては、市内で完結する使い方を想定していると思うが、周辺市町村と協力した運用も必要。自転車の拠点を市内につくっておいて、安曇野から松本までは自転車で行き、帰りは電車で戻ってきて自転車を返すという使い方。電車内は折りたたんで袋に入れてもらえば、通常運賃で利用できる。独自の折り畳み自転車の開発も含めて検討していても良いのではないかな。

〈委員長〉〈1-4-2〉「訪日外国人旅行者の受入体制整備」に関する事業について、どうか？
⇒意見なし。

〈委員長〉〈1-4-3〉「多様な旅行ニーズへの対応整備」に関する事業について、どうか？
⇒意見なし。

〈委員長〉〈2-1-1〉「広域・団体との連携によるPR」に関する事業について、どうか？
⇒〈委員〉市内には多くのクラフトショップがあり、作家さんも多く、これを目当てに訪れる若い女性の観光客も多いと聞く。クラフトショップ巡りに特化したパンフレットがあっても良いのではないかな。

〈委員長〉〈2-1-2〉「海外市場への情報発信強化」に関する事業について、どうか？
⇒意見なし。

〈委員長〉〈2-2-1〉「SNS・インフルエンサー等を活用した関係人口の創出」に関する事業について、どうか？
⇒意見なし。

協議事項等

〈委員長〉〈2-2-2〉「都市部企業・人の誘致」に関する事業について、どうか？

⇒意見なし。

〈委員長〉〈2-3-1〉「イベントの実施・創出」に関する事業について、どうか？

⇒意見なし。

〈委員長〉〈2-3-2〉「イベント来訪者の回遊性・リピート率向上」に関する事業について、どうか？

⇒意見なし。

〈委員長〉〈3-1-1〉「観光プロフェッショナルの登用・活用」に関する事業について、どうか？

⇒〈委員〉「観光コーディネーター」とは、どういった人材か説明してほしい。

⇒〈事務局〉観光に関する専門的な知見を持った人材で、観光事業者との連携した取り組み等を行う人材。観光協会での雇用を想定しており、外部からの登用、または内部人材の育成を想定している。

〈委員〉私は、安曇野市の観光人材育成の一環として、「地域通訳案内士」の資格を取得させてもらった。これは、全国地域通訳案内士に準ずる世界水準の資格で現在9名いる。ボランティアではなく、有料のガイド。

⇒〈委員長〉基本戦略3-1「観光人材の育成と活用」には、1~4の施策でプロ・担い手・ガイド・市民と、それぞれの層が想定されており、それぞれに育成と活用を図っていこうというものになっている。

⇒〈委員〉現在、安曇野市海外プロモーション協議会の事業で、地域通訳案内士の育成が行われている。ただ、ガイドの資格取得までで終わっているため、活用するための取り組みが必要。

〈委員長〉〈3-2-1〉「地域資源の活用」に関する事業について、どうか？

⇒〈委員〉大変良くできていると思う。特に「農の魅力向上や農産物の活用」については、JAとしても協力して取り組んでいきたい。

〈委員長〉〈3-2-2〉「温泉・温浴施設の魅力向上」に関する事業について、どうか？

⇒〈委員〉記載のある指定管理施設以外にも、民間経営の旅館など、他にも温浴施設があるため、そうしたところと連携した取り組みが必要。老朽化している面もあるが、それを魅力としてとらえた活用策にも、ぜひ取り組んでほしい。

〈委員長〉〈3-2-3〉「食の魅力発信」に関する事業について、どうか？

⇒〈委員〉「食の魅力発信」のほかに、先ほどの〈3-2-1 (2)〉「農の魅力向上や農産物の活用」

協議事項等

にも関わってくるが、これを進めるには、仕入れや流通の課題を解決する必要がある。宿泊事業者としてこれまで取り組んできた経緯があるが、JA を通すと3日以上かかってしまう点や、安定的な供給量の確保など、課題があつてなかなか進めることができなかった。こうした課題を解決できれば、もっと利用促進できると思う。

⇒〈委員〉〈3-2-3 (2)〉「安曇野の食の魅力発信」に記載のある内容では不十分。果物などの農産物は収穫などの農業体験含めて楽しんでもらえる。水産試験場の見学を含めた信州サーモンや、ニジマス・イワナ釣りなども魅力。カフェやレストランと連携した料理開発など、もっと具体的な食の魅力発信も考えられる。

〈委員長〉基本戦略3-3「新しい時代の滞在型観光の振興」に関する施策、事業について、どうか？
⇒意見なし。

〈委員〉最後に追加で一点お願いしたい。〈2-3-1〉「イベントの実施・創出」について、新しい体育館の活用も内容に加えてほしい。

〈委員長〉以上で、事業までの施策体系についての検討を終わる。出された意見については、どう対応するかは次回までに事務局で検討してもらい、成文化されたものを示せることと思う。

(2) 重点プロジェクトの検討

(3) KGI (重要目標達成指標) の検討

〈委員長〉本日は事務局から説明を受けたということで、次回会議で中身に関して検討していきたい。

〈委員長〉最後に、アドバイザーである長野県観光機構から、一言お願いしたい。

⇒〈長野県観光機構〉「資料2」について、「アウトプット(実施状況を測る指標)」の検証はできるが、「アウトカム(成果を図る指標)」の検証ができないということが多々起きるため、十分注意して検討してほしい。また、アウトカムの指標の中でインバウンドに関するものがないため、追加する必要がある。今後10年先を見据えたときに、若年層の旅行離れや人口減少といった問題により、指標の数値が影響を受けることも予想されるため、場合によっては見直しが必要になるかもしれない。最後に、最近の話題として「グランピング」の流行は、ピークアウトしたといわれている。流行の変化も見据えた計画にしてもらえればと思う。

4 その他

・事務局より、次回日程(11月11日13時30分～)等について連絡。

5 閉会(副委員長)

※ 会議概要は、原則として公開します。

※ 会議を非公開または一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。